

## 2022年10月実施 団体生命共済制度改正

※2022年6月から新制度による募集が開始されます。

### 新制度の概要

#### 第5章：「必要保障額の考え方」



自治労福島県本部共済推進委員会

### 目次 ⑦

番号	項目	ページ
Q1	改正後の制度で、どのように型とコースを決めるべきですか？	
Q2	必要保障額算出の目安はありますか？ 〔医療保障〕	
Q3	必要保障額算出の目安はありますか？ 〔死亡保障〕	
	①（例）20代独身	
	②（例）30代夫婦、共働き、子どもなし	
	③（例）30代夫婦、共働き（配偶者手取月20万） 子ども1人（未就学）	
	④（例）30代夫婦、共働き（配偶者手取月20万） 子ども2人（未就学）	
	⑤（例）30代夫婦、妻パート（パート手取月8万円） 子ども2人（未就学）	

## 目次 ⑧

番号	項目	ページ
	⑥ (例) 50代夫婦、妻パート (パート手取月8万円) 子ども (独立)	
	⑦ (例) 60代独身	
Q4	ライフステージ毎の死亡保障の目安は?	
Q5	必要保障額を正確に算出するには?	

### Q1 : 改正後の制度で、どのように型とコースを決めるべきですか？



まず、必要保障額の把握が重要です！

- ① まず、ご自分のライフステージに合せた「必要保障額」を算出します。
- ② 必要保障額に応じた「生命保障 (死亡保障) の型」と「医療保障のコース」を選択します。
- ③ 現行の掛金と比較し、必要に応じて「型」「コース」を修正します。

↓

決定

## Q2：必要保障額算出の目安はありますか？ [医療保障]

### ① 「医療保障コース」 選択の目安

コース	入院日額	選択の目安	説明
23	3,000円	■30日程度の入院	A
24	4,000円	■大部屋で可	
25	5,000円	■30日程度の入院	B
26	6,000円	■4人部屋を希望	
27	7,000円	■短期入院を考慮 ■個室～3人部屋を希望	C
28	8,000円		
29	9,000円		
30	10,000円	■短期入院を考慮 ■個室を希望（入院を希望する病院の差額 ベッド代によって選択）	
31	11,000円		
32	12,000円	■個室を希望（入院を希望する病院の差額 ベッド代によって選択）	
33	13,000円		
34	14,000円		
35	15,000円		

## Q2-2：必要保障額算出の目安はありますか？ [医療保障]

### ② 「A」の説明

市町村職員共済組合や地方職員共済組合による付加給付制度により、医療費の最終的な自己負担額は月約25,000円です。仮に30日間入院（厚生労働省の患者調査による平均入院日数は約30日です）したとすると、1日当たり1,000円の負担（A）ということになります。

これに食事代3食分1,380円（全国一律、B）、テレビ代や日用品代（C）を加えると、A～Cで約3,000円になります。

⇒23コース入院日額3,000円か24コース入院日額4,000円が適当と言えます。

### Q2-3：必要保障額算出の目安はありますか？ 【医療保障】

#### ③ 「B」の説明

病院には大部屋と呼ばれる6人部屋の他に、個室、2人室、3～4人室等があります。大部屋は公的医療保険が適用されるので、自己負担は生じませんが、大部屋以外の部屋にするとその差額、いわゆる差額ベッド代として全額自己負担となります。

差額ベッド代は病院によって異なりますが、4人室で平均2,500円程度です。

⇒4人部屋を選択する場合には、25コース入院日額5,000円か26コース入院日額6,000円が適当と言えます。

### Q2-4：必要保障額算出の目安はありますか？ 【医療保障】

#### ④ 「C」の説明

最終的な自己負担額は月約25,000円ですが、短期の入院になると1日当たりの負担額は大きくなります。

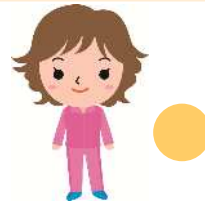
このことを考慮して、入院日額の高いコースを選択するという考え方もあります。



### Q3：必要保障額算出の目安はありますか？ [死亡保障]

#### ①（例）20代独身

死亡保障（型）	左の根拠
F型 600万円	死亡保障F型600万円は、現行D型と同額の最低保障額です。「600万円」については、主に若年層の独身時代の必要保障額として示してきました。若年層であれば、例えば奨学金返済、車等のローン返済、葬式代（全国平均費用200万円）等を考慮し、600万円あれば足りるだろうという設定になっています。
G型 700万円	
H型 800万円	



### Q3-2：必要保障額算出の目安はありますか？ [死亡保障]

#### ②（例）30代夫婦、共働き、子どもなし

死亡保障（型）	左の根拠
H型 800万円	夫婦のどちらかがお亡くなりになったとしても、生活は可能であるため、大きな死亡保障は必要ありません。 （概算額） □葬儀代・お墓費用他 500万円 □当面（1年分）の生活費+α 単身世帯生活費月20万円×12月+α≒300万円
I型 900万円	
J型 1,000万円	



**Q3-3 : 必要保障額算出の目安はありますか？**  
**[死亡保障]**

③ (例) 30代夫婦、共働き (配偶者手取月20万)  
 子ども1人 (未就学)

死亡保障 (型)	左の根拠
K型1,500万円	(概算額) <input type="checkbox"/> 葬儀代・お墓費用他 500万円
L型2,000万円	<input type="checkbox"/> 生活費 (月25万円-配偶者月20万円) × 12月 =年60万円マイナスとなりますが、遺族年金151万円があるので、考慮する必要はありません。 <input type="checkbox"/> 子ども教育資金 1,000万円 × 1人 = 1,000万円



**Q3-4 : 必要保障額算出の目安はありますか？**  
**[死亡保障]**

④ (例) 30代夫婦、共働き (配偶者手取月20万)  
 子ども2人 (未就学)

死亡保障 (型)	左の根拠
M型2,500万円	(概算額) <input type="checkbox"/> 葬儀代・お墓費用他 500万円
N型3,000万円	<input type="checkbox"/> 生活費 (月25万円-配偶者月20万円) × 12月 =年60万円マイナスとなりますが、遺族年金151万円があるので、考慮する必要はありません。 <input type="checkbox"/> 子ども教育資金 1,000万円 × 2人 = 2,000万円



**Q3-5 : 必要保障額算出の目安はありますか？**  
**[死亡保障]**

⑤ (例) 30代夫婦、妻パート (パート手取月8万円)  
 子ども2人 (未就学)

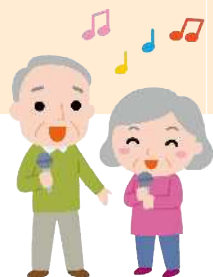
死亡保障 (型)	左の根拠
P型4,000万円	(概算額) <input type="checkbox"/> 葬儀代・お墓費用他 500万円
Q型4,500万円	<input type="checkbox"/> 生活費 (月30万円-妻月8万円) × 12月 = 年 264万円
R型5,000万円	(年264万円-遺族年金171万円) × (子ども大学 卒業まで) 16年 ÷ 1,500万円 <input type="checkbox"/> 子ども教育資金 1,000万円 × 2人 = 2,000万円



**Q3-6 : 必要保障額算出の目安はありますか？**  
**[死亡保障]**

⑥ (例) 50代夫婦、妻パート (パート手取月8万円)  
 子ども (独立)

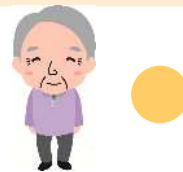
死亡保障 (型)	左の根拠
L型2,000万円	(概算額) <input type="checkbox"/> 葬儀代・お墓費用他 500万円
M型2,500万円	<input type="checkbox"/> 生活費 (月20万円-妻月8万円) × 12月 = 年 144万円 (年144万円-遺族年金51万円) × (妻65歳ま で) 15年 ÷ 1,500万円



### Q3-7 : 必要保障額算出の目安はありますか？ [死亡保障]

⑦ (例) 60代独身

死亡保障 (型)	左の根拠
H型 800万円	(概算額) <input type="checkbox"/> 葬儀代・お墓費用他 500万円 <input type="checkbox"/> その他 (家財処分費等) 300万円
I型 900万円	
J型 1,000万円	



### Q4 : ライフステージ毎の死亡保障の目安は？

独身時代	30代	40代	50代	60代
	結婚		子ども独立	再任用 定年延長
F型 600万円 G型 700万円 H型 800万円 I型 900万円 J型 1,000万円 K型 1,500万円 L型 2,000万円 M型 2,500万円 N型 3,000万円 O型 3,500万円 P型 4,000万円 Q型 4,500万円 R型 5,000万円	F型 600万円 G型 700万円 H型 800万円 I型 900万円 J型 1,000万円 K型 1,500万円 L型 2,000万円 M型 2,500万円 N型 3,000万円 O型 3,500万円 P型 4,000万円 Q型 4,500万円 R型 5,000万円	F型 600万円 G型 700万円 H型 800万円 I型 900万円 J型 1,000万円 K型 1,500万円 L型 2,000万円 M型 2,500万円 N型 3,000万円 O型 3,500万円 P型 4,000万円 Q型 4,500万円 R型 5,000万円	E型 500万円 F型 600万円 G型 700万円 H型 800万円 I型 900万円 J型 1,000万円 K型 1,500万円 L型 2,000万円 M型 2,500万円 N型 3,000万円 O型 3,500万円 P型 4,000万円 Q型 4,500万円 R型 5,000万円	E型 500万円 F型 600万円 G型 700万円 H型 800万円 I型 900万円 J型 1,000万円 K型 1,500万円 L型 2,000万円 M型 2,500万円 N型 3,000万円 O型 3,500万円 P型 4,000万円 Q型 4,500万円 R型 5,000万円



## Q5：必要保障額を正確に算出するには？



遺族（死亡）保障額を正確に算出するには「必要保障額診断シート」を使います。本資料54～57ページをご覧ください。



お疲れさまでした。



ご自分にあった、よりよい保障内容を選択しましょう！



自治労福島県本部共済推進委員会